

活動団体名	とやま地域循環共生圏づくり協議会
所在地	富山県富山市3190番地富山大学五福キャンパス内都市デザイン学部
団体の目的	地域の問題を解決するための社会事業を生み出すIncubate&Developプラットフォーム
活動地域	富山市
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	市民が、地域の問題を自分ごととして捉え、その解決に向けた活動を自ら興す、あるいは参画する地域。また、社会・環境に貢献する活動を、自由な発想と連携によって経済性のある社会事業として昇華できる地域。
地域の現状・課題	地域づくりは、「経済的活性化を目指す地域振興」から「地域の問題を解決するための社会的活動」にシフトしつつあるが、行政主導の事業で発生する活動に、事業者や市民が参加する「行政主導住民参加型」から「産学官民金による主体的な連携」への移行は、なかなか進んでいない。
地域が持つ資源	「薬都とやま」として薬関連事業を中心に発展してきた産業環境資源。高度3千mの立山と、水深1千mの富山湾を持つ豊かな自然環境資源。市町村合併によって面積が約6倍、人口密度が1/5になるなど、元々の地域差があり、その比較検討や、それぞれの資源で補完しあう可能性を秘めた社会環境資源。そして、「環境未来都市」、「SDGs未来都市」に選定され、積極的な取り組みを続ける富山市。
取組内容	富山大学が、ステークホルダーが主体的連携に基づいて課題を共有し、アイデアを持ち寄り、強みを生かして弱点を補い合う「社会事業創出の場」として“場”の調整をしながら、ワークショップを開催する。なお参加者は、富山大学の学生を主として、地元企業の代表、富山市職員で成る。
地域循環共生圏を実践することで想定される効果	<p>(環境)豊かな自然資源を活かした環境教育や着地型観光などの活動が、市内外の環境教育に貢献すると共に、産業振興資源ともなる。</p> <p>(経済)自由な発想と自由な連携によって、これまでにないアイデアが創出され、地域人材が総活躍できるような仕組みができ、地域の稼ぎが増える。</p> <p>(社会)これまで助成の切れ目が事業の切れ目になりがちだった社会福祉事業に、経済性が加わって持続性を備えた社会事業となって地域に貢献する。</p>